

平成27年度東京大学視察研修実施レポート

今年度で7回目となる東京大学視察研修を平成27年7月21日（火）～22日（水）の1泊2日の日程で、実施しました。県内の公立私立高校23校から参加した60名（昨年度から20名増）の高校生にとって、知的好奇心を大いに刺激され、夢の実現に向け、目標とする将来像をより具体化していくための貴重な機会となりました。

【1日目】

東京大学工学系研究科総合研究機構長の挨拶の中で、この研修の導入として、工学は、豊かな社会の実現に必要な「技術」の原理・基礎から応用までを研究するもので、対象は原子分子から地球環境に及びます。モノやシステムの創造から管理・運営・廃棄までを取り扱い、工学の総合化として理科系から文科系まで幅広い関わりがあるとの解説がありました。

●講義テーマ

- ・「風力発電の現状とこれから—いま必要とされている技術は？」
- ・「ハーバー・ボッシュ法を超えるアンモニア合成は誕生するのか？」
- ・「気候変動対策は緩和と適応、どちらが重要？」

これらのテーマごとに、現状と課題、最先端の技術や研究成果、今後の展望などについて説明があり、生徒たちにも考えてもらうための問いかけもありました。

講義終了後は、東京大学の先生方と参加生徒たちによる交流会が開催され、和気あいあいとした雰囲気の中で、生徒たちは先生方を質問攻めにしていました。



【2日目】

研究設備の見学では、地下1階から地上2階に及ぶ巨大な超高圧電子顕微鏡室（透過型電子顕微鏡）、表面の観察にそれぞれ適している走査型電子顕微鏡、長大橋梁の弾性模型実験が行える幅16mの風工学実験室、空気中の微細な埃を除去するスーパークリーンルームについて現場で説明を受け、その機能を体験しました。

その後、東京大学工学部の大学院生の案内で、キャンパスツアーを行いました。



（透過型電子顕微鏡）



（走査型電子顕微鏡）



（風工学実験室）

【参加生徒の感想】

多くの生徒たちが、この貴重な経験を通じて、たくさんのことを学び、様々な刺激を受けたことで、思い描く自分の将来像を確かなものにし、自分の夢に向かってさらに努力していくという思いを強くしていました。